

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2021年4月16日

株式会社アイワ

独自技術と社員への想いで着実な成長へ

プラスチック製緩衝材などの開発、製造、販売まで一貫した事業を展開している株式会社アイワ。独自技術と市場での存在感で着実な成長を続けている。2代目社長として日々を大切に、社員の「うれしい」と会社の成長を追求し続ける代表取締役社長の福山猛生氏に話を聞いた。

Company Data

株式会社アイワ

代表取締役 福山 猛生

住所 岩倉市井上町種畑 20

電話番号 0587-37-8300

URL <http://www.aiwacorporation.com>

紹介金融機関 中京銀行



ゴムからプラスチック、独自技術で存在感

当社は、1977年に父が会社を設立したことから始まりました。当初はゴム製品の製造加工を手掛けていましたが、将来性を考え、すぐ後にプラスチック事業に特化し、現在は特殊プラスチックメーカーとして認知されてきています。当社の主力製品は、オリジナル商品である特殊プラスチックボード「デュラウッド」と高機能プラスチックのフッ素樹脂「アイフロン」です。デュラウッドは押出成形法を用いた独自技術で成形しています。衝撃吸収性・耐荷重性に優れ、自動車の金属製パーツ等の保護材として、特に自動車関連産業では認知度が高く多く採用いただいています。

一方、アイフロンは半導体産業で多く採用され、当社のアイフロン成型品は耐薬品、耐熱、低摩擦、電気的特性に対して高品質を誇ります。半導体



を劇薬で洗浄する際のポンプやバルブに最適な素材であるとして、各企業から高い評価を得ています。

社員にとって、わかりやすく、うれしいことを次々に実践

私は 7 年前の 2014 年に父から社長を継ぎました。カリスマ性のある創業者、その 2 代目としてどのように社員の心をつかむか悩んだ結果、導き出したのが「わかりやすい方針を出す」ことでした。



そのひとつが「自分がされたらうれしいことをやる」ことです。

以前の当社は残業や会議が非常に多く、長期休暇前にはレポート提出を求め、社員にはうれしくないことが多くありました。これをすべて取り止め、報告書はシンプルにまとめ、会議も時間制限を設けるなど効率化を図り、時間を有効活用できる体制に整えました。これにより顧客への訪問機会が増え、そのうえで定時帰宅が可能となって家族や友人と過ごす時間として有意義に活用できるようになりました。社員にはいつも「会社のためではなく、自分の生活を豊かにするために働いて欲しい」と伝えています。その他、独自の福利厚生として業績が良い年は年 2 回、鮎屋で好きなだけ食べてもらうという会を開催したり、年始に社員全員で一流料理店に出かけて食事会を開いたりしています。「お腹がいっぱいで座れない」というぐらい食べてくれる社員もいて（笑）とても評判の良いイベントです。オフィスでお菓子の常備や、飲み物の無料提供などもしており、自分がされたらうれしいことを積極的に取り入れて実践することにより、社員が気持ちよく働ける環境づくりに努めています。

もうひとつは「将来の自分の姿が描ける会社にする」ことです。

社員が 5 年後、10 年後の豊かな生活をイメージできる会社になりたいと思っています。そのため、毎年の昇給や、夏と冬各 2 ヶ月分の賞与を支給することを目指すという方針を掲げています。また、営業には個人成績に対するインセンティブ制度を設けています。売上ではなく粗利に着目した評価基準とすることで、社員が経営者目線でのコスト意識を持つことができ、社員と個人の双方で win-win の関係が構築できています。

人生は短い、だから今日という一日を楽しもう

「Life is Short.」平均寿命は伸びていますが、健康で前向きに生きられる期間がどれくらいかは誰にもわかりません。だからこそ、今日を後悔しないよう大事に楽しく、しっかり生きることをいつも念頭において仕事も私生活も過ごしています。

経営者としては「自分がやっていることを信じる」こと。様々な経営方法があり、どれが正解かなんてわかりません。また、ヒトと同じことをしていても、良くてもヒト並みの結果しか出せません。だからこそ、業績という成果が出ていれば、異端児と思われても、迷わずそ

の道を突き進むことを信条としています。その成果は、社員の高い能力のおかげで生み出されています。しかしながら、社員が自分の高い能力を自覚できていないことも多いため、自分も自分が働く会社もすごいんだ！と自信をもって働けるよう、一人一人との面談や日々「君たちは能力が高い！もっとできる！」といった声掛けに努めています。

昨年はコロナ禍で当社も思うように事業を進めることができませんでした。今年はコロナだからといって自分に言い訳をしないで、自分たちにできることを会社一体となって取り組み、「今年はやった！」という年に必ずします。